

平成 22 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 高橋 春成

最終学歴	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位修得	
取得学位	博士（文学）（広島大学、第2386号）	
所属学会	日本地理学会、人文地理学会、地理科学学会、ヒトと動物の関係学会、野生生物保護学会、生き物文化誌学会、日本哺乳類学会、広島史学研究会、棚田学会	
専門分野	生物地理学、文化地理学、環境地理学	
研究課題	人と生き物の歴史・文化的な関係、地域づくりと生き物（人と生き物の共生）	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物地理学（前期） ・ 環境地理学（後期） ・ 地理学演習（通年） ・ 地理学卒業演習（通年） ・ ・
	大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域環境特論（通年） ・ ・ ・
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	<p>①文部科学省の科学研究費補助金（基盤研究（C）：研究課題名「近年の中山間地域の土地利用とイノシシの行動特性の関係 - 被害対策と共存にむけて -」（平成21年度～23年度）（研究代表者））を受けて調査・研究を行った。</p> <p>②江戸時代などに造られたイノシシやシカの農業被害対策用の石積みや土盛り（シシ垣）の遺構の保存と活用を目的に「シシ垣ネットワーク」を組織し（シシ垣ネットワーク代表）、毎年各地で「シシ垣サミット」を開催している。また、琵琶湖の集水域である河川や源流の大切さを啓発する活動団体「びわ湖の森の生き物研究会」に属し（会長）、各種の啓発活動を行っている。</p> <p>③「独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者」。</p> <p>④農林水産省競争的資金「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の書面審査専門評価委員。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>①ゼミ活動では、「人と生き物の歴史・文化的な関わり」、「人と生き物の共生」、「地域づくりと生き物」などをテーマに、実際に現地に出かけて、実践的な調査・研究を実施している。自動撮影カメラ、GPS、発信機などの機材を導入し、調査対象の生き物の撮影や捕獲なども行っている。現地調査では、地元の住民や行政機関との連携を図っている。このような中で、成果を地域に還元したり、ボランティア活動を行い、「人と生き物の共生」（たとえば、鳥獣害対策や外来種対策）に貢献する取り組みを展開している。【実践事例】神の使者とされる奈良公園のシカと人の共生。農林業被害が深刻なイノシシ・シカ・サルなどの問題解決。シシ垣遺構（江戸時代などに造られたイノシシやシカの侵入を防ぐための防壁）の保存と活用。オオクチバス（ブラックバス）、アライグマ、カミツキガメなどの外来種問題への対応。また、ゼミ活動の一環として、県外での研修も実施している。【実践事例】小笠原諸島、八丈島、奄美諸島、沖縄諸島、西表島、石垣島、四国。</p> <p>②講義においては、毛皮や頭骨といった生物標本などを活用し、五感で学べる学習を心がけている。また、現場の様子がわかる写真やビデオなどを導入し、理解を高める工夫をしている。</p>	

<p>【社会的活動】</p>	<p>①【学会関係】：地理科学学会評議員、人文地理学会協議員、ヒトと動物の関係学会評議員、広島史学研究会評議員、シシ垣ネットワーク代表、びわ湖の森の生き物研究会会長、「高原の自然史」（広島県北広島町教育委員会）編集委員</p> <p>②【審議会委員など】：農林水産省「農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー」、大阪府イノシン保護管理検討会会長、奈良県自然環境保全審議会委員、奈良県自然環境保全審議会鳥獣部会長職務代理、奈良県大型獣保護管理検討員、滋賀県外来種問題検討委員会委員</p> <p>③【市民講座など】：第3回シシ垣サミットを主催（シシ垣ネットワーク）（2010. 11. 27, 28. 広島県安浦町）。平成22年度地球環境「自然学」講座（NPO法人シニア自然大学校）での講演（2011. 2. 12. 大阪市）。</p>
<p>【学内活動】 (学内職歴を含む)</p>	<p>学生支援センター長、ハンドボール部顧問、写真研究会顧問</p>

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ①『日本のシシ垣 - イノシシ・シカの被害から田畑を守ってきた文化遺産 -』 ② ③ ④ ⑤	編著	2010年12月12日	古今書院, 360ページ.	我国の各地に残るシシ垣の遺構（江戸時代などに造られたイノシシやシカの農業被害対策用の防護壁である石積みや土盛り）の分布、構造、当時の社会情勢、今後の保存と活用などについて、約20名の執筆陣で書き上げた本邦初のシシ垣の書物。
(学術論文) ①イノシシ問題に対する産官学の取り組みと地域社会 ② ③ ④ ⑤	単著	2010年7月	地理科学, 第65巻第3号.	イノシシの分布拡大と農作物被害、鳥獣法の沿革、産官学の取り組み、地域ぐるみの対策と課題についてまとめた。pp. 183～193.
(学会発表) ①イノシシ問題に対する産官学の取り組みと地域社会 ②滋賀の獣たち - 人との共存を考える - ③奈良大学文学部の地理教育 ④なぜ今シシ垣か、シシ垣保存・研究活動の意義 ⑤	単 単 単 単	2010年4月24日 2010年6月19日 2010年10月3日 2010年11月27日	生き物文化誌学会えひめ西条例会（基調講演） 平成22年度滋賀ビオトープ研究会総会・講演会（講演） 日本地理学会シンポジウム「大学地理教育における標準カリキュラムと学士力」 第3回シシ垣サミット（講演）	話題となる「海を渡るイノシシ」、なぜイノシシは海を渡るのか？、分布域が拡大するイノシシ、近世の瀬戸内海島嶼部のイノシシ、姿を変え（家畜化されブタとなって）、海を渡ったイノシシなどについて講演を行った。 滋賀の河川流域や里山などに生息する野生動物と住民の歴史・文化的な関わり、獣害問題や外来種問題、共生のありかたなどについて講演を行った。 奈良大学文学部地理学科のカリキュラム、講義や演習などの特徴、卒業後の進路先、今後の地理教育のありかたなどについて発表した。 シシ垣の価値と、その保存・研究活動の意義について、講演を行った。

<p>(その他)</p> <p>①海を渡るイノシシ</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<p>単</p>	<p>2010年4月24日</p>	<p>生き物文化誌学会え ひめ例会要旨集.</p>	<p>話題となる「海を渡るイノシシ」、なぜイノシシは海を渡るのか?、分布域が拡大するイノシシ、近世の瀬戸内海島嶼部のイノシシ、姿を変え(家畜化されブタとなって)、海を渡ったイノシシについてまとめた。 pp. 4~16.</p>
---	----------	-------------------	-------------------------------	---